

2014年（平成26年度）複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	II-3 全てのいのちが共生する社会の構築		施策No.	13	施策名	生物多様性の社会への浸透
目的、内容	生物多様性の理解促進（情報発信の強化、参加型プログラムの充実等）及び現状評価（調査の実施、府民連携モニタリング体制の構築等） 2020年目標：生物多様性の府民認知度を70%以上にする。					
副次的効果、外部効果等	①生息環境を回復するための取組みにより、身近に生き物と触れ合える水とみどり豊かな都市が実現する。 ②生態系から得られる恵み（大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土、防災：生態系サービス）の維持向上に資する。					
関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(H24.9)、種の保存法、外来生物法 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画（H21年12月、H37年まで）、大阪府豊かな海づくりプラン（H17年5月、H26年度まで）					
国等の政策、社会情勢等	①H22年10月名古屋にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標（2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす）、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」H24年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。					
施策実施に要したコスト（職員人件費を除く）	事業のコスト（千円）		2011年度（決算額）	2012年度（決算額）	2013年度（決算見込額）	
	環境目的の事業費	本施策が主たる目的であるもの	333,708	12,307	1,657	
		本施策が従たる目的であるもの	219,279	399,607	323,318	
	環境以外の目的を含む事業費		194,387	188,923	536,043	
取組指標及び実績（施策効果の定量評価）	名称	把握方法		実績		
	① 生物多様性に関する府民の認知度	府インターネットモニターアンケートを利用（府民全体からの抽出ではないため、参考値として扱う*）。		17%(2010年度)、31%(2011年度)、33%(2012年度)と、穏やかに上昇傾向にある。		
工程表の進捗状況 [主な施策]	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況		
	府民理解の促進					
[工程表]	参加型プログラムの充実等	☆☆	体験施設の維持管理、各種プログラムの企画・実施	紀泉わいわい村、府立少年自然の家・青少年海洋センターの運営、企業連携による冒険の森づくり事業、市民参加によるイタセンバラ保護活動の実施等		
	ホームページの充実等による情報発信の強化	☆☆		ポータルサイト「おおさかの生物多様性ひろば」の設置 ガイドブック1,000部を作成（H25年度）		
	現況の把握					
	レッドデータブックRDBの改訂検討	☆☆	レッドデータブック改訂・活用推進事業	レッドリストを改定（2013年度末）		
	外来種リストの検討	☆		生物多様性保全の普及啓発と合わせて外来生物の問題についても情報提供している		
	モニタリングの体制整備（仕組みづくり・実施）	☆☆	大阪生物多様性保全ネットワークの取組推進	行政、研究機関、大学、NPO等でH23年度設立 生物多様性協働フォーラム、自然観察会等開催 レッドリストの改訂作業を実施		
	情報の共有化（既存施設・団体等と生息情報等を共有化）	☆☆	大阪生物多様性保全ネットワークの取組推進	同上		
[工程表]	生息環境の保全・再生の仕組み					
	生物多様性配慮の手引策定・実施（公共から民間へ導入検討）	☆☆☆		生物多様性保全ガイドラインを作成（2013年度）		
	生物多様性配慮活動の評価手法検討・実施	△	おおさか生物多様性パートナー協定制度の創設	企業と大学・研究機関・行政が協定を締結し、企業が取組む生物多様性保全活動を技術的に評価、支援 締結件数：3件（2013年度末まで）		
[工程表]	普及・啓発					
	地域のシンボリックな生物によるPR（HP情報発信）	☆☆	天然記念物イタセンバラを利用した普及啓発事業	観察会・出前授業 3年間で3,700名以上参加 支援市民ネットワーク設立、活動にのべ3,000人以上参加		
	まもりたい生物100選（仮称）の府民募集・モニタリングの実施	△		関西広域連合において、「（仮称）関西の残したい自然エリア」を選定中		
	生物と触れ合える場のPR 自然公園施設（府民の森、長距離歩道等）の情報発信	☆☆	「府民の森」のポータルサイト 自然環境保全普及啓発事業	各園地のイベント情報等をリアルタイムで提供、長距離歩道を利用したハイキングイベントの開催 自然歩道ガイドマップの作成		
[工程表]	参加・行動					
	身近な生き物調査	☆☆		小学校と連携し、チョウの自然観察会を開催（8校で実施）		
	企業・NPO・地域と協力した参加型プログラムの充実（共生の森、泉佐野丘陵緑地、里山・棚田保全、アドプトフォレスト、アドプトリバー、	☆☆	共生の森づくり活動	植栽面積133千㎡ 延べ参加人数1万4千人 参加団体256団体（2013年度末）		
			泉佐野丘陵緑地	2014年度の開園に向けて整備を実施、ボランティアとの協働で運営（面積約74.5ha）		
アドプトリバー		地域団体等との協働での河川環境改善 参加4万人超（2013年度）				
アドプトフォレスト		企業による森林整備 2013年度末時点で46社・団体が36箇所活動				

	オアシス構想推進等)		棚田・ふるさと保全事業	棚田基金の設置、府民による棚田保全活動を支援
	環境教育の推進 (出前事業、学校ビオトープ等の設置推進)	☆☆	おおさか生物多様性パートナー協定制度	生物多様性保全活動に取り組む企業が、敷地内ビオトープを活用し、府民参加による自然観察体験を実施 締結件数：3件(2013年度末まで)
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価	施策目的の達成状況	評価	理由等	
	事業・工程の進捗状況	順調に推移している		
		一部については計画以下または計画と異なる進捗 一部については計画以上の進捗	外来種リストの検討については、これまでのところは外来生物の問題の周知にとどまる。 生物多様性配慮活動の評価、まもりたい生物100選(仮称)については、異なる制度や事業により進捗。 生物多様性配慮の手引き策定については、計画以上に進捗。	
計画見直し 又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等	
	目標	無		
	施策の方向・主な施策	有	企業による生物多様性の取り組みを、評価制度ではなく協定制度により支援、PRする方向で見直しを検討	
	工程表	無		
	施策の推進方法	無		
関係課室	みどり都市環境室、農政室、都市整備部			

※本アンケートの対象は自己申告制のモニターであり、統計的な手法で府民全体から抽出したものではないため、本結果は府民の状況を統計的に反映したものではなく、参考値として扱う。

環境総合計画 部会委員による 点検(所見)	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について

2014年(平成26年度)複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	II-3 全てのいのちが共生する社会の構築	施策No.	14	施策名	生息環境の保全	
目的、内容	生物多様性保全に資する地域指定の拡大(保安林、鳥獣保護区等の拡大)、農空間保全地域制度による保全の推進 2020年目標:生物多様性保全に資する地域指定を計画策定時(2010年3月末81,970ha)から2,000ha拡大					
副次的効果、外部効果等	①生息環境を回復するための取組みにより、身近に生き物と触れ合える水とみどり豊かな都市が実現する。 ②生態系から得られる恵み(大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土、防災:生態系サービス)の維持向上に資する。					
関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(H24.9) 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画(H21年12月、H37年まで) 大阪府豊かな海づくりプラン(H17年5月、H26年度まで)					
国等の政策、社会情勢等	①H22年10月名古屋にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標(2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす)、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」H24年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。					
施策実施に要したコスト(職員人件費を除く)	事業のコスト(千円)		2011年度(決算額)	2012年度(決算額)	2013年度(決算見込額)	
	環境目的の	本施策が主たる目的であるもの	1,123,592	1,129,264	526,271	
	事業費	本施策が従たる目的であるもの	101,401	183,501	79,193	
	環境以外の目的を含む事業費		0	0	1,244,727	
取組指標及び実績(施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績			
	① 生物多様性保全に資する地域指定の対象面積	保安林、鳥獣保護区、国定公園、府立自然公園、近郊緑地保全区域等の面積を合算(府環境白書掲載データ)	81,991ha(2009年度末) 83,730ha(2013年度末)			
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況		
	生息環境の保全・再生の仕組み					
	生物多様性推進拠点の整備	☆☆	大阪府レッドデータリストの改訂(2013年度)	レッドリストにおいて生物多様性の高い地域をホットスポットとして選定、ランク付けを行い、保全を呼びかけ		
	生物多様性の保全に資する地域指定拡大(保安林・鳥獣保護区の拡大)(府立自然公園区域の指定)	☆☆	保安林の指定	2010~13年度に764ha追加指定。		
			鳥獣保護区の指定・更新	2010~13年度は追加指定なし(2014年度に追加予定)(鳥獣保護区の更新)2011年度:4190ha(6カ所)、2012年度:1659ha(2カ所)、2013年度:1004ha(2カ所)(特別鳥獣保護区の更新)2012年度:70ha(1カ所)		
			府立阪南・岬自然公園の指定	2011年度に947haを指定。		
	天然記念物の追加指定の検討	☆☆	天然記念物の指定	2010~13年度は追加指定なし。現在、指定候補となりうる樹木の調査を継続中。		
	生息環境の保全・再生・創造					
	法・条例に基づく緑地や自然環境の保全(自然公園法、森林法、大阪府自然環境保全条例、大阪府自然海浜保全地区条例による地域の保全)	☆☆	自然環境保全指導事業	指導員による巡視活動の実施		
			自然海浜保全地区管理事業	自然海浜(岬町)の清掃等の実施		
			森林保全管理事業	森林保全員の森林巡視活動及び森林法等に基づく開発行為の規制を通じて、保安林・府営林などの森林や自然環境の保全管理を実施		
	生物多様性に配慮した農空間の保全と活用	☆☆	農空間保全地域制度推進事業	2011~13年度末までの遊休農地解消面積 171.8ha		
	森林整備の推進(針広混交林化の推進)	☆☆	放置森林対策事業	防災上優先度が高い森林について優先的な管理対策を実施		
			アドプトフォレスト	企業による森林整備 2013年度末時点で46社・団体が37箇所で開催		
	里山の保全管理の推進(新たな森づくり制度の創設)	☆☆	森林・山村多面的機能発揮対策事業	大阪さとり地域協議会への支援を通じた、里山保全活動の促進 2013年度 46団体 210haで整備を実施		
	野生生物の適正な保護管理(シカ、イノシシの保護管理計画の推進)	☆☆	大阪府シカ保護管理計画(第3期:H24~28年度)	シカの捕獲や進入防止柵等の被害対策を総合的に推進し、人とシカの永続的な共存を図る 捕獲頭数 2011年度:901頭、2012年度:970頭、2013年度:1,338頭		
大阪府イノシシ保護管理計画(第2期:H24~28年度)			イノシシの捕獲や進入防止柵の設置等の被害対策を総合的に推進し、人とイノシシの永続的な共存を図る 捕獲頭数 2011年度:2,853頭、2012年度:2,920頭、2013年度:2,973頭			
外来生物対策(アライグマ防除実施計画の推進)	☆☆	アライグマ防除実施計画(第2期:H24~28年度)	市町村と連携して科学的・計画的な防除を実施 最終目標はアライグマの野外からの完全排除 捕獲頭数 2011年度:770頭、2012年度:1,102頭、2013年度:1,214頭			

	外来生物対策（ブラックバス、ブルーギルの駆除、外来水生植物の駆除）	☆☆	イタセンパラ生息環境の保全活動	市民団体、大学、企業、行政などで構成する「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク」による、イタセンパラの生息場所「わんど」における特定外来生物ナガエツルノゲイトウ、ボタンウキクサの除去やブルーギル、ブラックバスなどの外来魚駆除釣り大会等の活動について連携、支援を実施。
	生物多様性増大、生態系保全に関する調査研究推進	☆☆	酸性雨モニタリング土壌植生調査	酸性雨による生態系への影響の早期把握のための調査を実施（2011～13）
			森林資源モニタリング調査	カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の発生・被害経過について調査、防除事業を実施（2011～13年度）
			大阪府レッドデータブック改定(2013年度)	希少種、絶滅危惧種に関する情報を収集して作成
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗／☆☆計画どおり／☆計画以下の進捗／△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価		評価	理由等	
	施策目的の達成状況	順調に推移している	目標の2,000ha増に対し、2013年度までに1,711haを指定済み	
	事業・工程の進捗状況	計画の工程表どおり進捗		
計画見直し又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等	
	目標	無		
	施策の方向・主な施策	無		
	工程表	無		
	施策の推進方法	無		
関係課室	みどり都市環境室、環境管理室、農政室、動物愛護畜産課、教育委員会事務局			

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について



2014年（平成26年度）複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	Ⅱ-3 全てのいのちが共生する社会の構築	施策No.	15	施策名	生息環境の再生・創造
-----	----------------------	-------	----	-----	------------

目的、内容	生物多様性に配慮した行動促進（手引きを作成、公共事業・事業活動・日常生活における配慮促進、保全取組の評価制度の検討等） エコロジカルネットワークの構築推進（公園・府民の森・河川等の府民活動拠点化、周辺緑地等の整備等と連携、周辺山系～沿岸のネットワーク形成） 2020年目標：活動する府民を2009年の約7万人から30%増加の達成			
副次的効果、外部効果等	①社会教育効果、地域への愛着を高め地域社会の強化に資する。 ②生態系から得られる恵み（大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土、防災：生態系サービス）の維持向上に資する。			
関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(H24.9)、鳥獣保護法、外来生物法 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画（H21年12月、H37年まで） 大阪府豊かな海づくりプラン（H17年5月、H26年度まで）			
国等の政策、社会情勢等	①H22年10月名古屋市にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標（2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす）、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」H24年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。			
施策実施に要したコスト（職員人件費を除く）	事業のコスト（千円）	2011年度（決算額）	2012年度（決算額）	2013年度（決算見込額）
	環境目的の本施策が主たる目的であるもの	1,052,238	1,015,829	1,375,784
	事業費の本施策が従たる目的であるもの	2,884	12,328	70,167
	環境以外の目的を含む事業費	0	0	137,550
取組指標及び実績（施策効果の定量評価）	名称	把握方法	実績	
	① 生物多様性の損失を止める活動に参加した府民	生物多様性の損失を止める行動の規模を把握する。（おおさか山の日イベント、共生の森づくり・里山保全活動等、アドブトリバー・河川清掃活動）	約12.5万人（2011年度）、約21.0万人（12年度）、約19.6万人（13年度）	
	② 生物多様性分野の環境活動に取り組んだ府民の比率	府民インターネットモニターアンケートにより把握される、最近1年間に活動に参加した府民の比率（参考値）。	生物多様性の保全の分野について過去1年間に地域における環境保全のための取組に参加した府民の割合 6.1%（2013年7月調査）、5.9%（14年7月調査）、	
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況
	藻場・干潟の再生（保全及び親水活動）	☆☆	港湾建設事業（環境）	緑地整備、生息環境形成や水質浄化を図るための人工干潟を整備
	海底の砂地再生（マールビーチ等）	☆☆	藻場造成（2011年度）	覆砂・アマモ移植を行い、藻場を造成。2012年度からはNPO法人環境教育振興技術会に無償委託を行いモニタリング、アマモの播種、アオサの除去などのソフト面での取組を行っている。（2013年、アマモの種まきを地元小学生30名が実施）
	大阪湾窪地解消（モニタリング、埋め戻し工実施）	☆☆		堺市・岸和田市・貝塚市沖で計282万m <sup>3</sup> 埋戻しを実施（2013年度末、残量約1,647万m <sup>3</sup> ）
	水産資源保護管理（栽培漁業、増殖場、漁場整備）	☆☆	広域型増殖場造成事業（2011～13年度）	餌料培養礁・藻類着生礁の設置、造成済み既存増殖場にて海藻・魚介類・餌料生物等を調査して増殖場の効果を把握
			栽培漁業推進事業（2011～13年度）	大阪湾の水産資源の回復・維持と漁業生産向上のため、府栽培漁業基本計画を策定、対象魚介類種苗生産・放流を実施。（第6次計画5魚種）
	多自然川づくりの推進	☆☆	ふるさとの川整備事業の推進	河川本来の自然環境の保全・創出や周辺環境との調和を図るとともに、地域整備と一体となった河川改修を行い、良好な水辺空間を形成。
	大規模緑地等を拠点としたエコロジカルネットワーク構築（生物多様性やネットワーク化に配慮した公園整備・緑化推進）	☆☆	おおさか生物多様性パートナー協定の推進	生物多様性保全に取り組む企業と、府・試験研究機関との連携を推進。協定締結3件（2013年度まで）
			チョウのまちプロジェクト（2013年度）	堺市で府立大学・大泉緑地・大仙公園付近をモデル地区とし、小学校と連携して環境学習を展開。
	森林整備の推進（人工林の適正な間伐）	☆	森林造成事業、森林整備加速化・林業再生事業ほか	間伐実施面積 2010-12年度：2,758ha 2013年度：700ha
臨海部生息環境創造（共生の森づくりの推進）	☆☆	共生の森づくり	堺第7-3区産業廃棄物処分場の「共生の森（約100ha）」において、NPO等多様な主体との連携による森づくり活動、自然環境学習等を実施。毎年1,500人前後が参加	
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価	評価	理由等		
	施策目的の達成状況	達成	活動する府民が目標値を上回っている	
	事業・工程の進捗状況	一部工程進捗は計画以下		
計画見直し又は改善事項	見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等		
	目標	有	目標を達成済みであることから、新たな目標値等について検討	
	施策の方向・主な施策	無		
	工程表	有	施策目標のより確実な達成を図る観点から、工程表の見直しを検討	
関係課室	環境農林水産総務課、みどり都市環境室、環境管理室、水産課、都市整備部（港湾局、河川室、公園課）			

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について